

第9章 史跡河越館跡の整備

第1節 基本方針

「整備基本計画」と「整備基本設計報告書」が作成されたのは20年以上前であり、これに基づく第1期整備事業も行われたが、その後文化財保護行政をめぐる情勢は大きく変化している。そのため、過去の計画を基盤としつつも、この変化に対応した整備の基本方針を改めて設定する。

- (1) 河越館跡の本質的価値を伝え、「館」を体験できる整備を行う。
- (2) 郷土の歴史を学び、地域の魅力を発信する空間としての拠点整備を行う。
- (3) 河越館跡が恒久的に保存・活用されることを目指した整備を行う。
- (4) 周辺の各種資源や市街地関連施設とネットワーク化を目指した整備を行う。

第2節 方法

- (1) 河越館跡の本質的価値を確実に保存・継承し、伝えるために、地下の遺構・遺物への影響を防止する盛土等の施工により保存に十分なクリアランスを確保したうえで整備を行う。構造上十分な盛土が困難な箇所については、立ち入り制限等の部分的なゾーニングにより保存を図る。
- (2) 整備の方向性を踏まえたゾーニングに基づいて整備を行った第1期の整備計画を踏襲することを基本とし、史跡の本質的価値や地形等の諸条件を考慮しつつ改めてゾーニングを行う。
- (3) 河越館跡の本質的価値を構成する要素は複数の時代にまたがっているものの、全ての時代を整備対象とすると史跡の理解に混乱をきたす恐れがあるため、河越館跡の史跡指定理由及び第1期整備の方針を鑑み、河越氏が館を構えていた時代（本書第3章「Ⅰ．平安時代末期の河越館」「Ⅱ．鎌倉時代～南北朝時代の河越館」参照）の遺構に主眼を置いた遺構の整備を検討する。
- (4) 複数の時代にわたって利用された河越館跡は、様々な遺構が重複して検出されるなど、史跡の本質的価値を伝えることが容易ではない。そのため、遺構解説にはAR（拡張現実）・VR（仮想現実）等の先端技術の活用も検討する。なお、より具体的な整備手法・整備内容は整備基本計画の策定時に決定する。
- (5) 河越館跡の本質的価値を構成する出土資料については、現在も展示を行っている川

越市立博物館や川越西文化会館でのサテライト展示を拡充する方向で、効果的な活用を検討する。

- (6) 河越館跡周辺は入間川による浸水想定区域内にあり、家屋倒壊等氾濫想定区域に近い点を踏まえ、雨水排水の防災・減災に向けた整備を行う。併せて台風時の倒木や枝の落下等を未然に防ぐため、計画的伐採を含めた植栽等管理計画を立てたうえで整備を行う。

第3節 整備の内容

Ⅰ. 整備のゾーニングと整備内容（第9-1図、第9-1表）

- (1) 【Aゾーン】 第1期整備が行われたAゾーンは、市民の憩いの場である芝生広場のA-1ゾーン、河越氏時代の堀や井戸、山内上杉氏時代の堀等の復元整備を行った歴史を学ぶ空間であるA-2ゾーンで構成されている。第2期整備では、以下の改修整備を含めた方向性を検討する。

① A-1ゾーン（芝生広場）

- ・ 北側中央トイレ付近の解説サインに劣化・退色・傷等が見られるため、解説サインの補修及び解説内容の更新を検討する。
- ・ 芝生の侵食により西側の復元堀跡が埋もれているため、改修を検討する。
- ・ 整備時の盛土中に配置した各種植栽のうち、刈込・選定・施肥等が必要なものについてメンテナンスを行う。

② A-2ゾーン（遺構復元広場）

- ・ 園地の風化等で埋没している復元堀跡（8号堀跡）、豪雨により土が流出してしまった塚状遺構、柱穴表示プレートが欠損している掘立柱建物跡表示、外装が傷つき退色した復元井戸跡の井戸枠について、それぞれ必要な補修を検討する。
- ・ A-1ゾーン同様に、遺構個別の解説サインに劣化・退色・傷等が見られるため補修及び解説内容の更新を検討する。
- ・ 広場を構成する土舗装に雑草が繁茂するなど荒れた状態であるため、土舗装のメンテナンスを実施する。

- (2) 【Bゾーン】 平坦で開けた空間であることを活かし、史跡の学習だけでなく、憩いの場やイベント等の会場としても利用可能な、多機能広場として整備する。

Bゾーンは現存する土塁の東側を中心に、河越館跡の本質的価値に関わる遺構が検出されている。以下、整備の対象となりうる遺構について、多機能広場としての利用に支障のない手法での整備を検討する。

① 整備の対象となりうる遺構

- ・ 堀区画 布掘り基礎の堀区画を整備する。堀の上部構造及び高さについては発掘

調査成果から明らかになっていないため、整備計画では立体的な復元を行うか否かを含め、慎重に判断する。

- ・生垣による区画 発掘調査で検出された生垣跡からは植えられた植物の樹種や高さはわからないが、後述する道路遺構とセットになる重要な遺構であるため、整備対象とした。
 - ・道路遺構（兼通路） 道路遺構は塀区画・生垣と併せて理解する必要があるため、塀区画・生垣と併せた整備をするとともに、公園利用者の通路としても利用する。通路については、道路遺構とは別に史跡公園利用のために動線を設定した通常の通路も併せて整備する必要があるため、解説サインによる明示、外観や素材等による通常の通路との差別化を図る。
 - ・土塁 盛土による保護を行う。市道隣接箇所等の盛土による保護が困難な場所に関しては、立ち入り制限等の部分的なゾーニングで保護する。また、土塁上の既存樹木は老木・古木が多く、台風等の災害時には倒木や枝の落下の危険があるだけでなく、倒れる際に土塁を毀損する恐れがあるため、植栽の調査を行ったうえで、整備時に計画的に伐採を行う。
- (3) 【C ゾーン】 本質的価値に関わる遺構が検出されておらず、史跡公園としても活用が困難なエリアである。これまでは史跡管理のバックヤードとして現況のまま利用してきたため、第2期整備においても同様の利用を継続し、整備は行わない。
- (4) 【D ゾーン】 宗教法人常楽寺の境内地である。常楽寺は河越館跡の本質的価値を構成する要素の一つであるため、現状を維持しつつ共存していく。
- (5) 【E ゾーン】 史跡の南西部に隣接し、史跡の範囲外に仮設駐車場として整備されている公有地である。第2期整備にあたっては史跡の活用に資する便益施設として、大型バスが進入可能な舗装された駐車場としての整備を行う。

II. その他施設整備

(1) 盛土

- ・史跡の遺構保存のため、盛土施工後に他の整備を行う。
- ・第1期整備同様に史跡外周部が高く、史跡中央部が低くなる勾配で盛土を行い、雨水を史跡内の自然浸透で場内処理可能な形態に整備する。

(2) 多機能広場の整備

- ・憩いの場としての利用、イベント等での活用を想定した多目的広場の整備を行う。
- ・広場の素材については、利用の便だけでなく施工コスト・維持管理コスト等の諸要素を鑑みて、芝生、あるいは舗装材の使用を検討する。

(3) サイン整備

- ・史跡の状況や遺構の位置、動線計画を鑑みたサイン計画の元、整備した遺構には個別の解説サイン整備を検討する。サインの手法については、AR・VR等の先端

技術の採用を検討する。

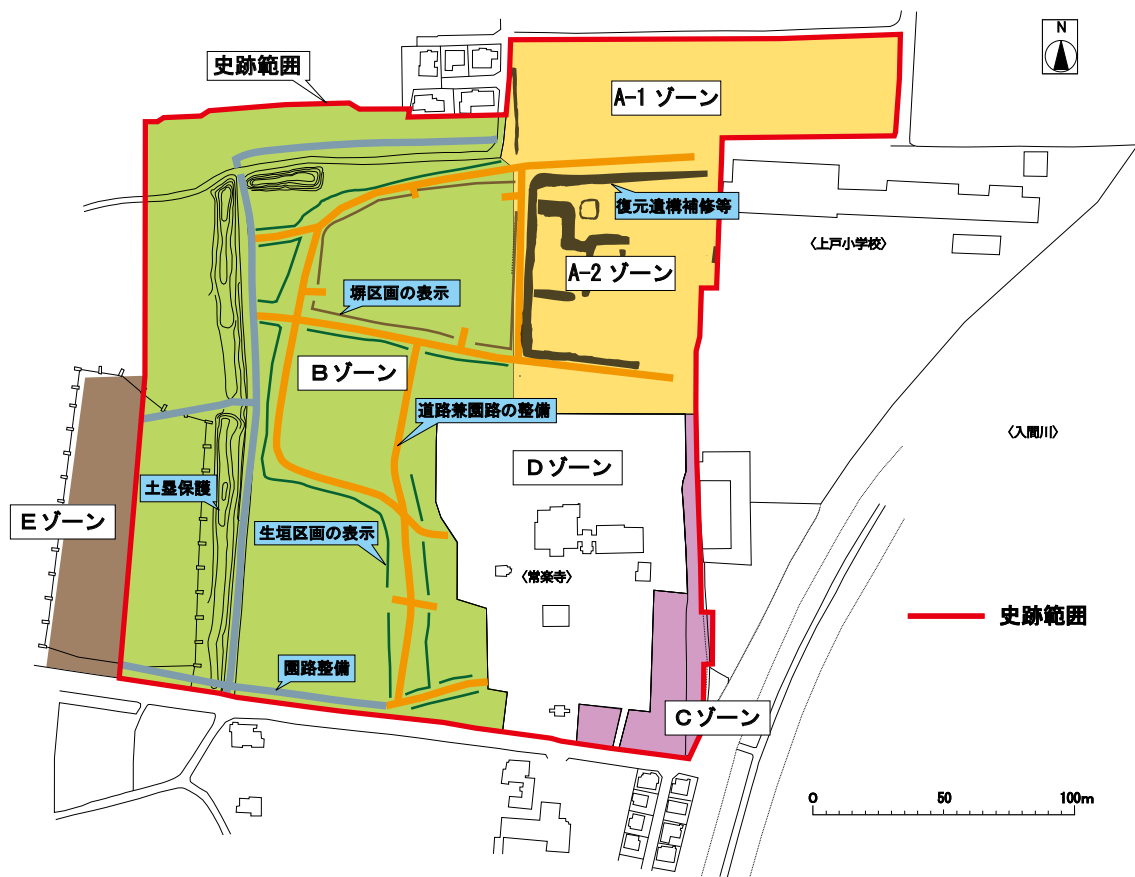
- ・サイン計画には史跡外に配置された史跡へのアクセスを補助する各種サイン（方向指示、案内地図等）も対象とし、内容と設置個所の再検討を行う。

(4) 便益施設の整備（B・Eゾーン）

- ・動線計画に基づいた通路を設定し、外周部はなるべく出入りを阻害しない仕様を検討する。併せて夜間の防犯措置として、街路灯の設置を検討する。電源確保や史跡盛土内での配線が困難な場合、ソーラー発電による街路灯を検討する。
- ・休憩用の東屋とベンチの設置を検討する。東屋については、利用者に復元遺構であると誤解されないように、現代的な形状・外観を検討する。具体的な設置位置については、整備基本計画の中で決定する。
- ・史跡南西部、史跡外の公有地にある砂利敷きの仮設駐車場について、舗装した史跡専用駐車場に整備する。併せて駐車場内に見学者用トイレの設置を検討する。
- ・歴史講座や体験型ワークショップ等の史跡活用事業を実施する拠点、史跡サポーター等の活動拠点とするための活用拠点施設について、必要性を含めて検討する。

(5) その他

- ・史跡周辺の各種資源や市街地関連施設とのネットワーク化を図るために、川越市観光に関連するアプリや情報誌などへの積極的な情報発信を行う体制を整備し、一体的な観光資源として機能するよう取り組む。また、川越市内の文化財とネットワーク化したアプリなども開発・整備を検討する。



第 9-1 図 整備のゾーニング

第 9-1 表 整備のゾーニングと整備内容

地 域		整備方針	整備内容等
第 1 期 整備範囲	A-1ゾーン	整備後劣化箇所 の補修	・解説サインの補修、更新の検討 ・復元堀跡の補修の検討 ・植栽のメンテナンス
	A-2ゾーン	整備後劣化箇所 の補修	・復元堀跡の補修の検討 ・井戸枠の補修の検討 ・塚状遺構の補修の検討 ・掘立柱建物表示の補修の検討 ・解説サインの補修、更新の検討 ・土舗装のメンテナンス
第 2 期 整備範囲	Bゾーン	・遺構表示 ・外構整備 ・環境整備	・堀区画の復元表示 ・生垣の復元表示 ・道路遺構兼通路の整備 ・土塁の保存整備 ・解説サイン整備 ・東屋、ベンチ等の便益施設設置 ・通路及び街路灯の整備 ・芝生あるいは舗装による広場整備 ・盛土工事
	Cゾーン	現状維持	(史跡管理用バックヤード)
	Dゾーン	現状維持	(常楽寺境内地)
	Eゾーン (史跡外)	便益施設整備	・駐車場整備 (活用拠点施設については検討を行う)



第 9-2 図 河越館跡史跡公園完成イメージ鳥観図